

つながろう三重



大きな衝撃を与えた東日本大震災。多くの団体・個人が被災地や被災された方々への支援の取り組みのために懸命に奔走されてきましたが、被災の規模はとてつもなく大きく、支援を続けるためのボランティアの参加や、物的・資金的支援を得ることも難しくなってきたとの声が聞こえるようになっていました。そこで、東日本大震災支援活動を行っている三重県の団体同士で現状や課題を話し合い、これからも継続して支援活動に取り組んで行くために手を取り合おうと呼びかけたところ、複数の団体から賛同の声を得ました。そして、震災から1年の平成24年3月11日、キックオフイベントを開催し74名（22団体+個人）の参加のもと支援団体連絡会の設立を提案、全員の賛同を得て設立を宣言しました。加入団体は平成25年1月現在25団体にのびります。

みえ東日本大震災支援団体連絡会（通称：つながろう三重）は、2か月に1度程度の定例会の開催と、メーリングリストおよびフェイスブックによる情報の発信・共有をおこなっています。それぞれの団体が仕事や活動をやりくりするなかで全員が定例会にそろうことは難しくはありましたが、顔を合washお互いの活動状況を伝え合うことで、新たな活動へと結びついた事例もありました。今後はメーリングリストの活用を中心におき、引き続きつながりあい、協力し合える関係づくりを目指します。

つながろう三重は、起ち上げ時から平成25年3月11日迄の事務局をみえ災害ボランティア支援センターが担いました。

それぞれのフィールドを活かして、被災地への支援活動を行なった多くの方がそうであるように、ぼく自身も、独自の活動を続けてきた。絵本読み聞かせ、1万冊絵本フェア、保育交流ツアー等々。

何かに困っていたり、何かを必要として「つながろう三重」に参加したわけではなかった。しかし、1万冊絵本フェアでは、絵本の移送を四日市運送さんが無償で引き受けてくれて助けてもらった。それをきっかけに、他の人たちの「思い」を感じることができた。

それによって、ぼくの活動に大きな変化があるわけではないが、「思い」を共有できる人たちとのつながりがあることは、大きな安心感と、何かで協働できるかもしれないというワクワク感になっている。これがあるのとないのでは、大きな違いだ。

NPO法人 ほがらか絵本畑
三浦 伸也さん



他の地域の災害ボランティア活動支援

東日本大震災以降も、豪雨・豪雪など、国内外各地で様々な災害が起こりました。大規模な災害の発生時には、多くのボランティアが被災者・被災地の大きな力となります。それらのボランティア活動が円滑に行われるよう、様々な支援活動を行うのがみえ災害ボランティア支援センターの役割です。平成24年は東日本大震災の支援活動を継続しつつ、発災時のボランティア募集等の情報発信や、京都府宇治市豪雨で被災した地域へのボランティアバスの共催運行などを行いました。

■主な活動支援

- ・平成23年台風12号災害の復興に関する情報提供（平成23年度より継続）
- ・豪雪地でのボランティア活動注意喚起情報提供
- ・九州北部豪雨災害に関する特設ページ（ホームページ内）の開設、情報発信
- ・京都府宇治市豪雨による「みえ伊賀発!ボラパック宇治」の運行

（伊賀市社会福祉協議会と共催）

